

企業のNPO連携活動が社会的評価と本業に与える影響

岡本育実（おかもと なるみ）

大江秋津（おおえ あきつ）

東京理科大学

1. はじめに

この度は優秀萌芽研究賞にご選出くださり、ありがとうございます。自分の研究について発表させていただきだけでなく、それに対するフィードバックや励ましのお言葉をいただき、あらためて研究の楽しさを感じることができました。講演や他の参加者の方の発表も拝聴させていただき、学びを深めることもできました。このような貴重な機会を設けてくださりました経営情報学会の皆様、そしてフィードバックをくださりました先生方や参加者の皆様、ありがとうございました。

また、研究をご指導くださりました大江先生、さまざまな場面で惜しめないサポートをしていただきましたゼミの先輩方に深く感謝申し上げます。

2. 研究概要

受賞した研究は、NPO連携が企業の社会的評価と本業のファイナンシャルパフォーマンスに与える影響を実証するための研究の計画です。ここでいうNPO連携とは、企業がCSR活動において、NPO（Non-Profit Organization）と連携して社会貢献活動を実施することです。この研究は、予稿提出時は1つの研究として計画しておりました。しかし、ポスター発表に向けて、分析手法を意識して仮説を見直ただけでなく、発表時のアドバイスも参考にし検討した結果、次の研究に分割することになりました。NPO連携の活動内容に着目した企業の社会的評価を実証する研究と、NPO連携により形成されたネットワークを通じて得られる資源が、企業の社会的評価と本業のファイナンシャルパフォーマンスに与える影響を実証する研究です。この2つの研究から、企業がNPOとの連携から得られるものは何か、また、企業のSPOへの成長可能性を明らかにしたいと考えています。

気候変動や都市化の進行により、世界中で社会課題が増加し、複雑化しています。この社会課題の解決が急務ととらえられ、SDGsや企業の社会課題への取り組みに関心が高まる中、SPO（Social Purpose Organization）への注目も集まっていると考えます。SPOとは、社会的ミッションを達成することを目的に、経済的価値と社会的価値の2つの価値を提供する活動を行う組織です（Weerawardena, Salunke, Haigh, and Mort, 2021）。企業が社会の一員として、経済的価値を追求するだけでなく社会的価値も創造できる存在、SPOに成長することへの期待や必要性は、今後さらに高まるのではないかと考えております。

3. 現在の研究状況と今後の研究計画

現在は、今回発表した計画のうち、NPO連携の活動内容が企業の社会的評価に与える影響に関する研究に取り組んでいます。NPO連携に関するテキストデータを加工し、テキストマイニングによる分析も行っています。今後は、もう1つの研究計画も実現するとともに、論文投稿にも挑戦したいと考えています。

4. 最後に

私は、学部3年生になり、ゼミに配属されてから研究を始め、昨年秋の経営情報学会の全国大会で初めて発表をした際は、緊張のあまり、発表することで精一杯でした。その後、ゼミ内での発表会や他研究室とのインゼミなどで研究発表を重ね、研究の楽しさを再確認できました。特に、自分の興味を追究できることや、新しい知識や理論を知ることで自分の興味や理解を深められること、他の方とのディスカッションや意見交換などを通じて自分と異なる視点の考えやアドバイスをいただくことで、自分の考

えや研究をさらに広げられるところを楽しく感じ、研究の面白さをより強く感じるようになりました。そして、2度目の学会発表となる今回の大会では、緊張しながらも、研究を通じたコミュニケーションを楽しむことができたように思います。まだまだ未熟な部分も多々ありますが、今後も探究心や好奇心を持ち続け、研究と共に成長できればと思います。さらに、研究内容を分かりやすく伝えるだけでなく、私自身が感じている研究の楽しさや面白さを周りの方々にも伝えられるような発表をしていきたいです。

大江先生や憧れの先輩方が築いてこられた大江研究室は、私にとって、仲間とお互いを高め合える大切な場所です。大江研究室は、大江先生や先輩方の優しさと温かさに溢れていて、研究をはじめとしたさまざまなことに精力的に取り組む仲間が多く、その姿にいつも刺激をもらっています。この場所で研究に巡り会えたこと、大江先生やゼミ生の皆さんと出会えたことを幸せに感じております。この環境に身をおき研究に励めること、そして、私が研究に取り組むことを応援し支えてくださる周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、精進して参ります。この度は、本当にありがとうございました。

5. 指導教員からのコメント（大江秋津）

この研究は、岡本さんのCSRに関する強い興味・関心から生まれた研究です。前回の大会では、ネットワーク分析や重回帰分析を行い、企業とNPO・NGOが連携して形成したネットワーク上でレアな知識が入手できるポジションに位置する企業ほど、CSR活動に熱心であることが分かりました。企業

がどのNPO・NGOと組むかが、その後の企業のCSRに対する姿勢に大きな影響を与えているのです。

この成果をふまえて、今回の研究計画を作成しました。CSR活動をどのようにすれば、本業と協奏する真に価値ある活動となるのか。これが、多くの企業の悩みであり、課題であると思います。崇高な理念を持って活動しているNPOも、理想を実現するために多くの資源が必要となります。この両者の課題を解決できるような研究を、今後も岡本さんとともに行ってゆきたいと考えています。

最後に、岡本さんが修士進学を決断して望んだ発表で、このような賞を受賞できたことは、彼女の今後の研究成果と成長に大きな影響を与えるでしょう。私自身もこの賞の受賞に恥じないよう、萌芽研究を目指して研究に邁進して参ります。

参考文献

- [1] Weerawardena, J., Salunke, S., Haigh, N., and Mort, G. S., "Business Model Innovation in Social Purpose Organizations: Conceptualizing Dual Social-Economic Value Creation," *Journal of Business Research*, Vol. 125, 2021, pp. 762–771.

略歴

岡本育実（おかもと なるみ）

東京理科大学経営学部経営学科4年。

大江秋津（おおえ あきつ）

2012年筑波大学システム情報工学研究科修了。学位博士（マネジメント）。現在 東京理科大学経営学部准教授。専門 組織行動論。